

第1分科会 事例紹介要旨

発表者：(特)川口市民環境会議 代表理事 浅羽 理恵 氏
副代表理事 橋本 泰孝 氏

川口市の拠点施設を“つながりの場”として活用することで、団体の活動を広げていった様子を紹介していただきました。

1 団体紹介

エコライフDAY、環境出前講座、環境フォーラムなどの実施を通じて、川口市のさまざまな主体(市民、行政、事業者など)が一緒になって環境問題に取り組むことを促している。現在では、活動が全県域に広がっている。

2 拠点施設活用の軌跡

(1) 1998年～ 川口市役所市民生活部ボランティア係

- ・現かわぐち市民パートナーズステーション所長から「ボランティア係に寄っていかないか」と声をかけられたのがきっかけ。
- ・任意団体として会員を集めている時期で、出会いの場となった。
- ・ボランティア係が環境部へつないでくれた。

(2) 2000年～ かわぐちボランティアサポートステーション

- ・会議室等が備わっていたため、活動拠点として使い始めた。
- ・施設を使用している他の団体とのつながりができた。(イベントで福祉団体が製作した箸ケースを配布、エコライフDAYの集計をそろばん教室の生徒に依頼など)
- ・つながりができた団体からはロータリークラブや青年会議所を紹介してもらった。
- ・鷲巣所長から川口市のミレニアム事業「市民提案ゆめづくり事業」にエコライフDAYの応募を勧められた。採用され、市の事業となったことで、環境部や県とのつながりが強くなり、活動が全県域に広がった。

(3) 2006年～ かわぐち市民パートナーズステーション

- ・共同事務所ができたので、法人事務所として利用。
- ・共同事務所部分は入居団体が自分達でルールをつくって運営している。
- ・立地が良いため、今年から環境フォーラムの会場として使用している。

3 かわぐち市民パートナーズステーション運営委員会

拠点施設の運営委員会に参加。

市民のボランティア参加と団体の交流について考えるプロジェクトチームをつくり、異分野が集まって交流する「ボランティア広場」を企画した。月1回、30名程度で現在まで5回開催され、実際に団体同士の交流が始まっている。

第1分科会 意見交換要旨

ファシリテーター：埼玉県NPO懇話会委員 望月 泰宏 氏

参加者一人ひとりが自分たちの活動紹介を行いながら、「つながる」をキーワードとして意見交換を行いました。発言の内容は主に次の3つに区分されます。

1 つながるきっかけ

(意見概要)

- ・行政の担当課とのつながりに苦労したが、市民活動担当課がつないでくれた。
- ・活動する上で広報は重要であるが費用がかかる。行政の広報紙を活用させてもらうなどでヒントが得られればと思って参加した。
- ・行政の広報紙に載せてもらうには、実績があると良いのではないか。
- ・協働は、分かりやすくインパクトのある話でもちかけると良いのではないか。

(ファシリテーターのコメント)

- ・つなげてくれる人がいないと困る。
- ・例えば、講座の実施を行政の広報紙に載せてもらいたいと思ったら、まずは無償で、こちらから出向いていって講座を開催する。損して得取れで、無償だと広報紙に載りやすいし、最初はこちらから足を運んでいても、実績ができてくると、逆に行政から呼ばれるようになる。

2 つながるときの姿勢

(意見概要)

- ・新しい活動を始めようとしても、地区ごとの縦割りだったり、自治会などの既存団体の反感があったりでうまくいかない。「地がつながっているんだから」と思ってやっている。
- ・行政職員の意識がまだ高まっておらず、団体を圧力団体と感じているところが多い。市民活動担当課がクッションにならなければいけない。担当職員には熱意が必要。
- ・行政は団体の熱意を真剣に聞いて、何かできないか考えることが大切。

(ファシリテーターのコメント)

- ・「地がつながっている」という感覚は素晴らしい。行政は自分達がつくった区域内でしか動けないが、NPOは区割りを超えてつながっていける。
- ・NPOは「して欲しい」「しなければ」が強く出がちだが、それだと行政職員はカウンターから出てこない。
- ・かわぐち市民パートナーズステーション所長は良い意味で利用し、利用されている。お互いに嫌がらず、まめに気づかうことがNPOにも行政職員にも必要。
- ・「協働」というと大きなことを言いがちだが、人間同士がやることなのだから、「こんにちは」「ありがとう」の小さな言葉から仲良くなっていくことが大切。
- ・行政は縦割り組織で、予算で動いている。協働は「しなやか」で「したたか(計画的)」なのが良い。
- ・NPOが参画する委員会などでは、行政職員もNPOもコーディネーター役にならなくてはいけない。

3 他団体とのつながり

(意見概要)

- ・市民でできることは市民でやろうという活動をしている。様々な市民団体と連携しなければ成り立たない活動で、他団体との協働を勉強しているところ。
- ・行政は個々の団体に協力依頼しづらい。団体同士だとそれができる。
- ・広報の手段として、それぞれの団体がもっている地に足のついたネットワークを使わせてもらおうと、お互い様で経費もかからないので良いと思う。
- ・パソコン関係の活動は様々に変化できるので、同じ分野の活動団体とつながるといいのでは。
- ・最初は行政が仲介で入っていても、様々な切り口からのつながりを大切にしていくことで、必然的に団体同士のつながりが生まれていくものだと思う。
- ・NPOと企業との協働にトライしていきたい。企業とNPOの考えは違うし、企業にNPOを理解してもらうのが難しいけれど。
- ・団塊世代センターの職員や利用者の経歴を活用して企業とつながることも可能ではないか。

(ファシリテーターのコメント)

- ・ボランティアネットワークのコーディネーター役が必要。
- ・行政職員が関係団体に声をかけてやることも大切だと思う。